水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

多様な水産物と地域社会の多様なかかわり

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 廣田, 将仁, 牧野, 光琢 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006583

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

多様な水産物と地域社会の多様なかかわり

【研究課題名】
PICES MAFF-Funded Project,
“Marine Ecosystem Health and Human Well-Being”

【実施年度】平成24～28年度

経営経済研究センター　漁業管理グループ
廣田将仁・牧野光琢

目　　的

1980年代以降、インドネシアでは輸出のためのエビ類単一種養殖が盛んに行われてきました。その後、マングローブの伐採による海岸浸食やウィルスによるエビの大量へい死と養殖場放棄に伴い、雇用や生活など地域社会の停滞が問題になっています。漁業管理グループではこれへの対処として、IMTA（多栄養段階複合養殖）*によって環境修復を図るほか、そこから生産される多様な水産物を地元の人たちの生活に役立たせるための研究を、現地の人たちと力を合わせて開始しました。

方法と結果

IMTA実験池を設置してそのメカニズムと有効性を科学的に明らかにするとともに、現地研究者を対象に水質や微生物のモニタリング技術習得のための研修を行いました。また、IMTA生産物（エビのほかサバヒー、カニ、二枚貝など）のコモディティ・チェーン・マップ（流通経路地図）を作成し、流通する多様な種類の水産物がどのような職業によって支えられ、どのように消費されるかを調べました（図1）。その結果、エビ類の単一種養殖を改めIMTAを普及させることにより持続的な養殖が可能になるとともに、海岸線の浸食に一定の効果があること、また、地域にさまざまな種類の職業が成り立ち、住人が多様で豊かな水産物を消費できる可能性があることが明らかになりました。

波 及 効 果

エビ類の単一種養殖だけでなく、地域社会に恩恵を与えるIMTAとをバランスよく地域社会に根付かせていくためには、人々の正しい知識と理解が不可欠です。そのため、エビ養殖に関係する方々を広く集めたIMTA国際ワークショップをインドネシアの各所で開催し、メディアを通じて社会の関心を高めることが出来ました（図2）。今後は地域の人々が主役になりIMTAを定着させていくことが期待されます。

* IMTA（Integrated Multiple Trophic Aquaculture）とは、魚類と貝類、海藻類を連結し統合的に管理する養殖手法である。

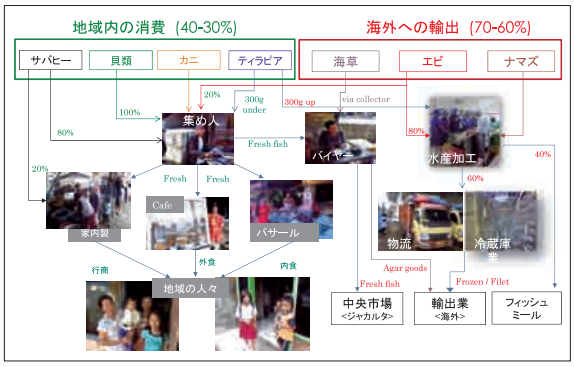

図1　コモディティ・チェーン・マップ（流通経路図）

図2　IMTAのための国際ワークショップ（ジャカルタ）
インドネシア、米国、日本の研究者も参加し、インドネシア国内から広く参加者が集まった。この様子は各メディアを通じて発信された。